

# 外為マンスリーレビュー

2018/09/04

## 8月はドル高・円高でクロス円が軟調

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ポンド/円</a>	↓	欧州に政治の季節到来 予想レンジ: 139.000~145.000円	2-3
<a href="#">豪ドル/円</a>	↓	上昇に向けたハードル高い 予想レンジ: 77.000~82.000円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



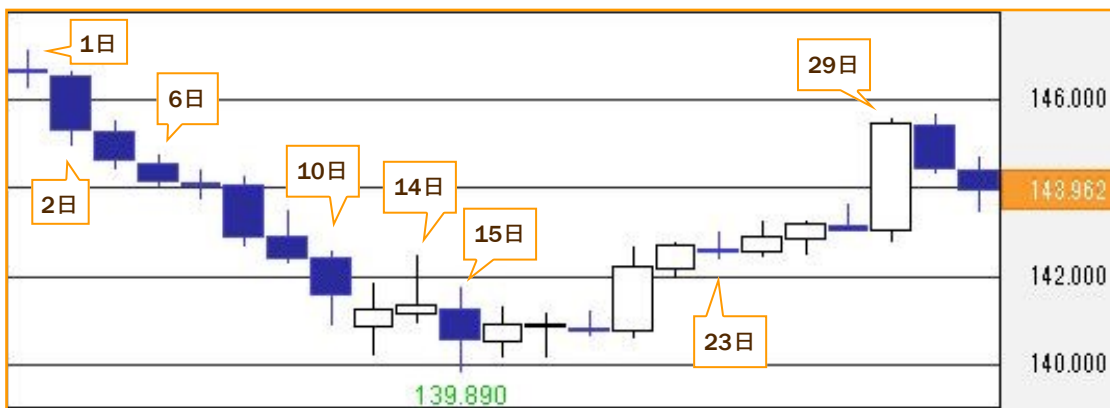
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018Gaitame.comResearchInstituteLtd.AllRightsReserved.www.gaitamesk.com

## ポンド/円 8月の推移

# GBP/JPY

8月のポンド/円相場は139.890～147.140レンジで推移。月間の終値ベースでは約1.9%の下落(ポンド・円高)となった。なお、15日に付けた139.890円は、現時点での年初来安値である。序盤は、英中銀(BOE)の「慎重な利上げ」や「合意なき英国の欧州連合(EU)離脱=Hard Brexit」への懸念に加え、トルコ・ショックの余波などからポンド売り・円買いが活発化。しかし、安値を付けた15日を境に流れが反転し、29日にはBrexit交渉のEU側の窓口であるバルニエ氏が「特例提案」に言及した事を好感して一時145円台を回復した。ただ、バルニエ氏は翌日には「EUはHard Brexitも含めあらゆる選択肢に備えなければならない」などと述べてポンドを反落させた。



### 四本値

OPEN	146.689
HIGH	147.140
LOW	139.890
CLOSE	143.962

1日	英7月製造業PMIは54.0と予想(54.2)に届かず前回(54.3)から低下した。
2日	BOEは予想通りに政策金利を0.50%から0.75%に引き上げた。同時に公表した議事録では9人の金融政策委員会(MPC)メンバー全員が賛成した全会一致の利上げであったことが明らかになった。また、四半期インフレレポートでは、2018年と19年のインフレ見通しや成長見通しを小幅に上方修正した。これを受けてポンドは一時買われたが、カーニーBOE総裁が会見で英国のEU離脱に関連するリスクへの懸念を表明し、金融政策は「歩くべきであり、走るべきではない」として慎重な姿勢を示すと再びポンド売りが強まった。
6日	フォックス国際貿易相はEUとの離脱交渉について、合意が成立しないまま英国が離脱する確率が60%あるとの認識を示し、「欧州委員の頑なさが合意なき離脱に我々を追い込もうとしている」としてEU側の対応を批判した。これを受けてポンド売りが強まった。
10日	英4-6月期国内総生産(GDP)・速報値は前期比+0.4%、前年比+1.3%と予想通りに前回(+0.2%、+1.2%)を上回った。なお英6月鉱工業生産指数は前月比+0.4%と予想(+0.3%)を上回り前回(-0.2%)から上昇、英6月貿易収支は113.83億ポンドの赤字と予想(119.50億ポンドの赤字)の赤字額を下回って前回(125.26億ポンドの赤字)から改善した。
14日	英4-6月失業率(ILO方式)は4.0%と、予想(4.2%)を下回り約43年ぶりの低水準に改善。これを受けて一時ポンド買いが強まったが、4-6月週平均賃金が前年比+2.4%にとどまり、予想(+2.5%)に届かなかった事から失速した。
15日	英7月消費者物価指数は前月比±0.0%、前年比+2.5%、コア前年比+1.9%といずれも予想通りだった。また、英7月小売物価指数は前年比+3.2%(予想+3.4%)、英7月生産者物価指数は前年比+3.1%(予想+3.0%)とマチマチの結果であった。これらに対するポンドの反応は乏しかったが、新興国景気への不安などから欧米株が下落する中、次第にポンド売り・円買いが優勢となった。
23日	英国のラーブEU離脱担当相が「合意なしでのBrexitの可能性が高まりつつある」と発言。なお、英政府はこの日、Brexitを巡り、国民や企業に対して「合意なき離脱」に備えるための文書の公表を開始した。
29日	Brexitを巡り、EU側の首席交渉官であるバルニエ氏が「前例のない特例的な提携関係を英国に提案する用意がEUにはある」と発言。また、EUは英国との将来の関係について10月か11月に声明を発表する事を検討しているとも明らかにした。これを受けて「Hard Brexit」への警戒感が緩みポンドが急騰した。

## GBP/JPY

## 日経平均

OPEN	22642.18
HIGH	23032.17
LOW	21851.32
CLOSE	22865.15

## FTSE100

OPEN	7748.76
HIGH	7790.17
LOW	7428.67
CLOSE	7432.42

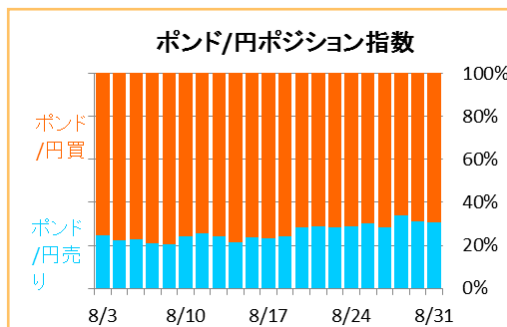
## 英2年債利回り

OPEN	0.779%
HIGH	0.822%
LOW	0.674%
CLOSE	0.731%

## 英10年債利回り

OPEN	1.341%
HIGH	1.506%
LOW	1.196%
CLOSE	1.427%

## 8月のポジション動向



## 9月の英国注目イベント

- ・8月英製造業PMI(3日)
- ・8月英建設業PMI(4日)
- ・8月英サービス業PMI(5日)
- ・7月英鉱工業生産(10日)
- ・7月英貿易収支(10日)
- ・8月英雇用統計(11日)
- ・BOE政策金利発表(13日)
- ・8月英消費者物価指数(19日)
- ・8月英小売物価指数(19日)
- ・8月英生産者物価指数(19日)
- ・8月英小売売上高(20日)
- ・EU首脳会議(20日)
- ・4-6月期英GDP・改定値(28日)

[経済指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 9月の見通し

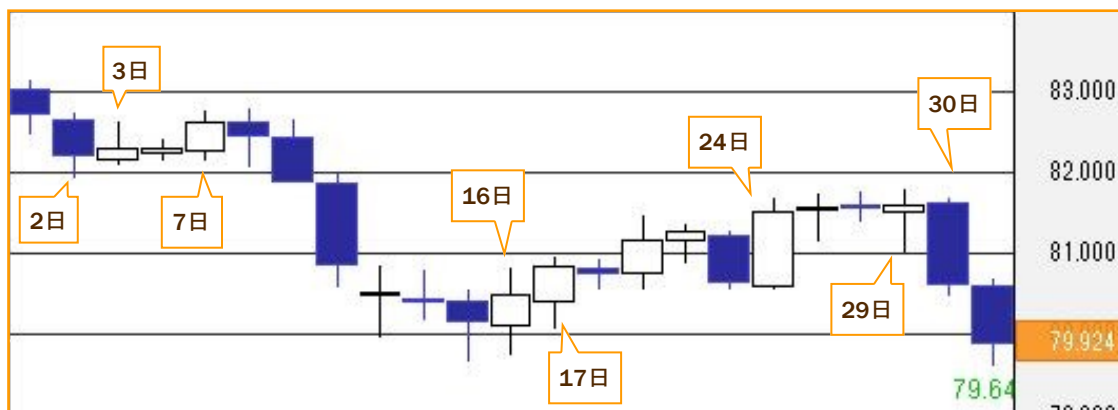
9月も引き続き、英国と欧州連合(EU)の離脱協議が市場の関心を集めそうだ。8月末のバルニエ首席交渉官の発言(「前例のない特例的な提携関係を英国に提案する用意」)から、EU側が態度を軟化させたようにも見えなくはないが、交渉の先行きを楽観できる状況にはないだろう。特に、英領の北アイルランドとユーロ圏のアイルランドが接する国境の管理問題については、具体的な進展はほとんどない模様だ。10月中という一応の交渉期限が近付いており(11月までの延長が可能との見方も出始めているが)、そろそろ協議の遅れが意識される時期に差し掛かっている。9月の協議の展開次第では「合意なき離脱=Hard Brexit」の懸念がじわりと高まる事になるかもしれない。また、英国内の政治動向にも注目しておきたい。9月4日に英議会が夏季休暇明けで再開するほか、下旬にかけてはメイ首相率いる与党保守党や最大野党・労働党の党大会が予定されている。3日付けの英紙は「保守党内の20人の議員がメイ首相のBrexit計画に反対する運動を支持」と報じた。メイ降ろしの機運が再燃しないか、目配りが必要だろう。英国をはじめ欧州は、「政治の季節」を迎えようとしている。(神田)

(予想レンジ: 139.000-145.000円)

## 豪ドル/円 8月の推移

# AUD/JPY

8月の豪ドル/円相場は79.644~83.133円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.8%の大幅下落(豪ドル安・円高)となった。トルコ・ショックの余波などから新興国通貨に下落圧力がかかる中、豪ドルにも売りが波及すると80円台を割り込んだ。その後は、米中貿易協議再開への期待などから下げ渋り、81円台後半へと反発する場面もあったが、月末が近付くと豪ドル売りが再開。豪中銀(RBA)の利上げ期待が後退した事や、米中貿易戦争への懸念が再燃した事で再び80円台を割り込むと、31日には79.644円まで下落して2016年11月以来の安値を付けた。



### 四本値

OPEN	83.029
HIGH	83.133
LOW	79.644
CLOSE	79.924

2日	前日終盤に「米政権は2000億ドル相当の対中輸入への関税を10%から25%に引き上げる案を検討」と報じられた事を受けて、上海市場をはじめ中国株が大きく下落すると、豪ドルにも売り圧力がかかった。その後、中国も「報復の用意は完全に整っている」と表明したため、豪ドル売りが加速した。
3日	豪6月小売売上高は前月比+0.4%と市場予想(+0.3%)を上回った。その後、中国人民銀行が、人民元売り抑制策として為替フォワード取引の準備金率を20%に引き上げると発表。豪ドル/円は、豪ドル/米ドルの上昇につれて強含んだ。
7日	RBAは予想どおりに政策金利(1.50%)の据置きを発表。同時に公表した声明では「政策スタンスを変更しないことが経済の持続可能な成長と、時間をかけてインフレ目標を達成することに一致すると判断」「RBAによる豪経済の中心的な見通しは変わっていない」などとして中立的なスタンスを維持した。その後、上海株が午後の取引で上げ幅を拡大すると豪ドル/円も82円台後半へ上伸。人民元が対ドルで上昇した事も豪ドルを支援した。
16日	「中国商務次官が8月末に訪米して通商協議を行う」と報じられると、米中が貿易摩擦解消に向けた動きを再開するとの期待感から円売りが優勢となった。中でも、中国と豪州との関係性の深さから、豪ドル/円の反応が大きかった。なお、豪7月雇用統計は失業率が5.3%(予想5.4%)に低下して2012年11月以来の水準に改善した一方、新規雇用者数は予想(1.50万人増)に反して0.39万人減となった。
17日	ロウRBA総裁は議会証言で「政策金利を当面据え置く公算が大きい」「失業率低下とインフレ上昇のペースは緩慢」「政策金利の次の動きは下げでなく上げの可能性が高い」などと述べた。その後、米紙が、米中両国は11月の首脳会談を視野に貿易問題の解決に向けて協議する方針だと報道した事を受けて米国株が上げ幅を拡大すると豪ドル/円も上昇した。
24日	ターンブル首相の辞任を受けて行われた豪与党・自由党の党首選でモリソン財務相がダットン前内相を破って当選。前日にターンブル首相の辞任観測で売られていた反動が出たほか、市場寄りの新首相誕生を好感した買いが入り、豪ドル/円は上昇した。
29日	豪州大手銀行のウェストパックが住宅ローンの変動金利を上げた事で、他行の追随が見込まれる中、RBAが低金利を維持する期間が長引く(利上げの必要性が薄れる)との見方が広がった。オフショアのドル/人民元相場で人民元売りが強まった事と相まって豪ドル売りが活発化した。
30日	豪7月住宅建設許可件数は前月比-5.2%と予想(-2.0%)以上に減少し、豪4-6月期民間設備投資も前期比-2.5%と予想(+0.6%)に反して減少。いずれも前回値(+6.8%、+1.2%)を大幅に下回ったことで豪ドル売りが強まった。さらに、トランプ米大統領が「来週にも2000億ドル相当の中国製品に対する追加関税を発動する考え」を示したとの一部通信社による報道が伝わると、米中貿易摩擦への懸念が高まり、豪ドル売りが加速した。

# AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	22642.18
HIGH	23032.17
LOW	21851.32
CLOSE	22865.15

## NYダウ平均

OPEN	25461.63
HIGH	26167.94
LOW	24965.77
CLOSE	25964.82

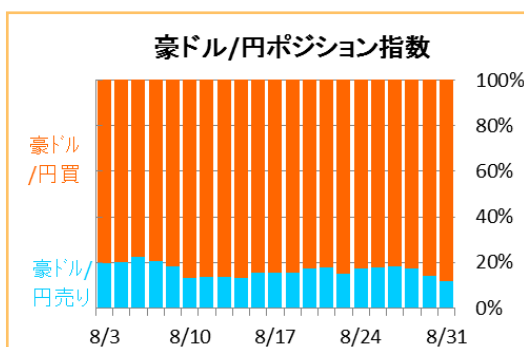
## 上海総合指数

OPEN	2882.506
HIGH	2897.400
LOW	2653.112
CLOSE	2725.250

## 豪10年債利回り

OPEN	2.671%
HIGH	2.750%
LOW	2.511%
CLOSE	2.519%

## 8月のポジション動向



## 9月の豪州・中国注目イベント

- ・ 7月豪小売売上高 (3日)
- ・ RBA政策金利発表 (4日)
- ・ 8月中国財新製造業PMI (5日)
- ・ 4-6月期豪GDP (5日)
- ・ 7月豪貿易収支 (6日)
- ・ 8月中国外貨準備高 (7日)
- ・ 7月豪住宅ローン件数 (7日)
- ・ 8月中国貿易収支 (8日)
- ・ 8月中国消費者物価指数 (10日)
- ・ 8月豪雇用統計 (13日)
- ・ 8月中国鉱工業生産 (14日)
- ・ RBA議事録 (18日)
- ・ 9月中国製造業PMI (30日)

## 9月の見通し

[経済指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

足元の豪ドル安を象徴するのが米豪政策金利の逆転であり、米国との貿易摩擦による中国景気の減速懸念だろう。9月4日の豪中銀(RBA)理事会では、政策金利を史上最低の1.50%に据え置かれる公算が大きい一方、25-26日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では政策金利であるFF金利が2.0-2.25%に引上げられる事がほぼ確実と見られている。米豪金利差は拡大基調が続く、豪ドルの上値を抑える要因となりそうだ。豪州の利上げ期待がカギとなるが、豪大手民間銀行が住宅ローン金利を上げた事でRBAの利上げの必要性が薄れたとの見方が一般的だ。こうした見方を覆す強材料は期待しづらいが、5日の豪4-6月期国内総生産(GDP)や13日の豪8月雇用統計に注目しておきたい。

米中貿易戦争に関しては、6日以降に米国が対中関税第3弾を発動する可能性があり、この有無が最大の焦点となろう。仮に発動されれば豪ドル相場への下押し圧力となる公算が大きい。なお、6日は2000億ドル規模の中国製品に対する関税へのパブリックコメント募集期間の最終日に当たり、一部の報道によるとトランプ米大統領はパブリックコメント募集期間が終了次第、直ちに発動したい考えとされる。

9月の豪ドル/円が上昇するためには、豪利上げ期待の浮上や貿易戦争懸念の後退などが必要になると見られ、現時点ではそのハードルは高いといわざるを得ないだろう。(神田)

(予想レンジ: 77.000-82.000円)